

令和 6 年度

年間授業計画

教科

家庭科

科目

家庭基礎

教科： 家庭科

科目： 家庭基礎

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年

教科担当者：	A組 福井 井上	B組 福井 井上	C組 福井 井上	D組 福井 井上	E組 福井 井上	F組 福井 井上	G組 福井 井上
使用教科書：	教科書「家基705家庭基礎 気づく力 築く未来」						

教科 家庭科 の目標：

【知識及び技能】	・人間の発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】	・家庭や地域及び社会における生活の中から課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	・さまざまな人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な知識の理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身につける。	生活の中から自ら課題を見つけ設定し、その解決策を考え・実践するなど、生活の課題を解決する力を養う。	ワークなどを通じて仲間と協働する力を養い、家庭の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	単 元 1 第1章 家族・家庭のあり方と役割について学ぶ	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	ライフステージにおける発達段階について学び、家族に関する法律の理念や背景について理解する。	ライフステージにおける発達段階について学び、自分・家族の課題について考える	自分自身について考えるワークシートやレポートなどを通して、自分の一生についてまとめ将来を見通した課題を見つけることができる。家族に関する法律についての知識を身につける。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	6
	自分について自己分析を行い、未来予想図を描く。どのような青年期を生きるかを考えることができる。	教科書	自分のキャリアについての設計を考えることができる。現在の家族・家庭のあり方や役割について考えを深め、表現することができる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	具体的に生涯にわたる生活設計を考え、家族の抱える問題について学び、具体的なサポートのあり方について考える。	シュミレーションソフト	家族・家庭の役割について興味・関心を持とうとしている。労働の意義や役割について関心を持ち課題を見いだそうとする。				
	単 元 2 第2章 子どもとのかかわり	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	子どもを生きて育つ意義について理解する。	子どもとどうかかわり育んでいくのか考える。	子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身につけている。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	10
	子どもは、親や保育者などの身近な大人との関わり合いの中で発達していくことを理解する。	教科書	子どもの心身の発達、現在の子どもの取り巻く環境や子育て環境について課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	子どもの食生活・衣生活、遊びについて理解を深める。	シュミレーションソフト	子どものためのおもちゃづくりなどの実践活動に積極的に参加し、子どもの発達の様子や生活に興味・関心を持とうとしている。				
	定期考査（第1学期中間考査）/返却と解説						
	単 元 3 第3章 高齢者とかかわる	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	高齢者、高齢社会への理解を世界の動向からも深める。	誰もが共に充実した毎日を送ることができる社会の在り方を考える。	高齢社会の現状や高齢者の心身の特徴について理解している。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	3
	個人や家庭生活を支える社会保障制度や社会福祉についての重要性を理解する。	教科書	社会福祉や生涯を通しての社会保障制度の仕組みについて、現在の生活課題と関連させながら考えることができる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	高齢社会の現状を知り、身近な問題としてとらえる。	シュミレーションソフト	高齢社会の現状、高齢者の心身の特徴や生活について積極的に知り、高齢者とかかわろうとしている。				
	単 元 4 第5章 食生活をつくる	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	自身の食生活の現状把握と今後の課題を理解する。栄養素の種類と働きや栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を身につける。	自身の食事から食品ごとに含まれる栄養素を学び、バランスの良い食事について考える。	栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術科学的な思考を身につけ、それを実際の食生活に生かすことができる。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	5
	食事調査を通して、各自の食生活の問題点に気づく。食事摂取基準、食品群別摂取量などを用い、家族の献立作成を行う。自身の食事から食品ごとに含まれる栄養素を学び、バランスの良い食事について考える。	教科書	栄養の機能と食品のかかわり、食品の特性と調理の関係、食品選択、栄養計算や献立作成など、実際の食事づくりに向けての判断ができる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	健康で豊かな食生活をはぐくむための気づきや工夫をしようとする。基礎的な技術を身につけ、食事マナーを実践する。衛生と安全に配慮して、調理することができるようになる。	シュミレーションソフト	調理実習において、作業の流れを判断し積極的に参加し取り組もうとしている。				
	定期考査（第1学期期末考査）/返却と解説						1

令和 6 年度 年間授業計画 教科 家庭科 科目 家庭基礎

教科： 家庭科 科目： 家庭基礎 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年

教科担当者：	A組 福井 井上 B組 福井 井上 C組 福井 井上 D組 福井 井上 E組 福井 井上 F組 福井 井上 G組 福井 井上
使用教科書：	教科書「家基705家庭基礎 気づく力 築く未来」

教科 家庭科 の目標：

【知識及び技能】	・人間の発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】	・家庭や地域及び社会における生活の中から課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	・さまざまな人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な知識の理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身につける。	生活の中から自ら課題を見つけ設定し、その解決策を考え・実践するなど、生活の課題を解決する力を養う。	ワークなどを通じて仲間と協働する力を養い、家庭の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
2 学 期	単 元 5 第5章 食生活をつくる	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	自身の食生活の現状把握と今後の課題を理解する。栄養素の種類と働きや栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を身につける。	自身の食事から食品ごとに含まれる栄養素を学び、バランスの良い食事について考える。	栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術科学的な思考を身につけ、それを実際の食生活に生かすことができる。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	12
	食事調査を通して、各目的の食生活の問題点に気づく。食事摂取基準、食品群別摂取量などを用い、家族の献立作成を行う。自身の食事から食品ごとに含まれる栄養素を学び、バランスの良い食事について考える。	教科書	栄養の機能と食品のかかわり、食品の特性と調理の関係、食品選択、栄養計算や献立作成など、実際の食事づくりに向けての判断ができる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	健康で豊かな食生活を営むための気づきや工夫をしようとする。基礎的な技術を身につけ、食事マナーを実践する。衛生と安全に配慮して、調理することができるようになる。	シュミレーションソフト	調理実習において、作業の流れを判断し積極的に参加し取り組もうとしている。				
	単 元 6 第9章 消費行動を考える	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	契約・多様な販売方法や支払い方法、問題商法について理解する。消費者の権利と責任について理解する。	持続可能な社会を形成していく一員として、自立した生活を営めるようする。	消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解でき、また契約についての知識を身につけている。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	12
	資源・環境に配慮した生活スタイルについて考え実行できる。	教科書	消費行動と環境とのかかわりについて、生活と関連させながら課題を見つけ、解決の方向性を判断することができる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	家庭の収入や支出、予算生活の必要性について理解する。	シュミレーションソフト	自分の経済的自立を考えながら、短期・長期の経済計画について意欲的に取り組もうとしている。				
	定期考査（第2学期中間考査）/返却と解説						
	単 元 7 第7章 衣生活をつくる	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	衣服がもつ機能や安全性について学ぶ。暮らしの中の衣服素材の性能と改善について学ぶ。	健康で快適に装うために、どのように衣生活を組み立てていけばよいかを学ぶ。	衣服の素材の種類や特徴について知識を身につけ、用途に応じてどんな衣服が適切か理解できる。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	5
	洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について理解し、衣服の種類に応じた適切な選択や保管ができる。	教科書	衣服素材・衣服整理についての基礎的な知識を身につけ、実生活での衣服管理において、適切な判断ができる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	衣服製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身に着ける。	シュミレーションソフト	基礎縫いの確認のための実習や、衣服調査などにおいて、積極的に取り組もうとする。				
	単 元 8	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	定期考査（第2学期期末考査）/返却と解説						1

令和 6 年度

年間授業計画

教科

家庭科

科目

家庭基礎

教科： 家庭科

科目： 家庭基礎

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年

教科担当者：	A組 福井 井上 B組 福井 井上 C組 福井 井上 D組 福井 井上 E組 福井 井上 F組 福井 井上 G組 福井 井上
使用教科書：	教科書「家基705家庭基礎 気づく力 築く未来」

教科 家庭科 の目標：

【知識及び技能】	・人間の発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】	・家庭や地域及び社会における生活の中から課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	・さまざまな人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な知識の理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身につける。	生活の中から自ら課題を見つけ設定し、その解決策を考え・実践するなど、生活の課題を解決する力を養う。	ワークなどを通じて仲間と協働する力を養い、家庭の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
3 学 期	単 元 9 第7章 衣生活をつくる	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	衣服がもつ機能や安全性について学ぶ。暮らしの中の衣服素材の性能と改善について学ぶ	健康で快適に装うために、どのように衣生活を組み立てていけばよいかを学ぶ。	衣服の素材の種類や特徴について知識を身につけ、用途に応じてどんな衣服が適切か理解できる。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	8
	洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について理解し、衣服の種類に応じた適切な選択や保管ができる。	教科書	衣服素材・衣服整理についての基礎的な知識を身につけ、実生活での衣服管理において、適切な判断ができる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	衣服製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身に着ける。	シュミレーションソフト	基礎縫いの確認のための実習や、衣服調査などにおいて、積極的に取り組もうとする。				
	単 元 10 第8章 住生活をつくる	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	ライフステージや住まう人の住欲求によって平面計画が変化することを理解する。	ライフステージによる住まいの変化について考える。 ・快適な住まい方を考え、平面計画を立てる。	住まいの機能・役割、またライフステージや家族構成などと住まいの関係について理解している。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	6
	住まいの生活空間の機能を理解し、空間の特徴や家族のイメージをすることができるようにする。	教科書	現代のライフスタイルやライフステージに応じた住まいについて考えることができる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	まちの課題について自分なりに解決策を考えることで、一市民としてまちづくりに参画する姿勢を持つ。	シュミレーションソフト	住まいの機能、住空間の計画や住環境について関心を持ち、快適な住まいづくり、よりよい住生活の創造に向けて意欲的に取り組もうとする。				
	単 元 11	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	単 元 12	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	定期考査（学年末考査）/返却と解説						1